東日本区・西日本区ユース報告書

AYC 2023

AREA YOUTH CONVOCATION

REPORT

2024.2

発行者：AYC日本チーム団長　風間奈月、副団長　長瀬優衣

SHINE TOGETHER,

AUGUST 2023

GROW STRONGER

目次

- **巻頭挨拶**
- **開催概要**
- **参加者一覧**
- **プログラム報告**

  スケジュール

  ディスカッション、セッション

  福祉施設訪問

  カルチャーナイト

  タレントナイト

  アクティビティ

  参加者間交流
- **参加者感想**

  参加者間でのアンケート

  団長メッセージ
- **学びと展望**

  2025AYC熊本、2024IYCに向けて

報告書デザイン：下山夏央

巻頭挨拶

代表者挨拶

　まずはじめに、ワイズメンズクラブの皆さま、そして私たち16名がこのプログラムに参加できるよう送り出し支援してくださった方々に、心より御礼申し上げます。プログラムが終了後も、多岐にわたって親身にサポートをしてくださいました。本当にありがとうございました。
　今回のプログラム・ネパールでの1週間は、私たち全員にとって成長のチャンスでありこれまでに培ってきた知識やものごとの捉え方をまた別の角度で見つめ直す貴重な時間になりました。1週間を通して、自らの力を試し、課題に協力して挑むことができたと実感する場面は多々ありました。社会課題解決に向けて議論を交わしたこと、ネパールという地で、社会問題を目の当たりにしたこと、国を超えて良き友ができたこと、これらによって私たちユースに多くの気づきや学びが与えられました。
　そして、AYC2023のクロージングセレモニーにて、私たち日本チームは「MOST VIBRANT DELEGATION」「BEST PRESENTATION AWARD for Local Food & Games」「BIGGEST DELEGATION AWARD」の3つの部門での表彰を受けました。私たちがそれぞれ持ち合わせた得意分野や好きなことを活かし、1つのチームとして協力して活動できた、という実感がプログラム最後に形あるものとして残され、認められたことはとても嬉しく思います。
　AYC2023では、私たちは個々人がそれぞれの学びを深め考え行動することができました。プログラム参加のご報告も、この報告書にて一つの集大成を迎えることができればと思います。ぜひこの報告書の飾らない私たちの言葉や写真を通して、私たち日本チームの体験をより深く感じていただけますと幸いです。

風間奈月、長瀬優衣

開催概要

- **開催期間**

2023年8月25日(金)〜8月29日(火)
渡航期間　8月23日〜8月30日

- **開催地**

ネパール　カトマンズ

- **参加人数：38人**

参加国内訳：
日本16人、タイ2人、台湾4人、
ネパール5人、香港11人（内2人カザフスタン出身）

- **会場**

Hotel Thamel Park

参加者一覧

東日本区

- 岩﨑葵　〈東京八王子クラブ〉
中央大学YMCA

- 風間奈月　〈甲府21クラブ〉
山梨YMCAスタッフ、団長

- 小見萌々花　〈所沢クラブ〉
立教大学YMCA

- 下山夏央　〈東京町田コスモスクラブ〉
慶應義塾大学生

- 田中大翔　〈東京八王子クラブ〉
中央大学YMCA

- 轟千佳　〈東京八王子クラブ〉
中央大学YMCA

- 長瀬優衣　〈東京町田コスモスクラブ〉
武蔵野大学生、副団長

- 菱山紀武　〈川越クラブ〉
立教大学YMCA

東日本区

- 藤原直輝　〈東京八王子クラブ〉
中央大学YMCA

- 藤原湧介　〈東京八王子クラブ〉
中央大学YMCA

- 丸山啓太　〈東京サンライズ　東京西クラブ〉
東京YMCAリーダー

- 三木祐弥　〈東京ひがしクラブ〉
東京YMCAリーダー

- 渡辺乙葉　〈宇都宮クラブ〉
とちぎYMCAリーダー

西日本区

- 石井翔也　〈和歌山クラブ〉
和歌山YMCAリーダー

- 金丸翔海　〈熊本ジェーンズクラブ〉

- 中西海斗　〈熊本西クラブ〉

※氏名(50音順),〈推薦ワイズ〉

プログラム報告

- スケジュール
- ディスカッション、セッション
- 福祉施設訪問
- カルチャーナイト
- タレントナイト
- アクティビティ
- 参加者間交流

プログラム報告

スケジュール詳細

Pre1	Pre2
東日本区：成田空港→トリバブン空港 西日本区：関西国際空港→トリバブン空港 到着後は市内観光 （Patan Museum / Monkey Mountain Temple） ホテル周辺の散策	

Day1
AYC登録 ホテル周辺散策
オープニングセレモニー セッション、ディスカッション1
カルチャーナイト （お菓子と折り紙の紹介）

Day2
福祉施設の訪問
市内散策 （Kathmandu Durbar square）
カルチャーナイト （歌と踊りの紹介）

プログラム報告

スケジュール詳細

Day3
セッション2 ディスカッション2
セッション3 ディスカッション3
タレントナイト （特技や歌の披露）

Day4
セッション4 グループワーク
アクティビティ （チームビルディング）
クロージングセレモニー

Day5
お別れ会
市内散策
トリバブン国際空港　帰路へ

プログラム報告

ディスカッション

AYC2023では、それぞれが今後の世界のあり方を考え、ユースとして地域や国を超えて、周りや社会に対して積極的にアプローチすることを大きなテーマに、さまざまな分野について議論しました。挑戦や行動のために必要な知識、考え方、学びの場について考え、お互いに身を置く社会環境や国内情勢の違いを話し合う中では、多くの気づきがありました。

話し合いの中で、私たち日本出身のメンバーの多くは、積極的に意見を他者に伝え、アイデアや疑問を行動に移すことの不慣れさを感じることがあったと思います。私自身、日本の少子高齢化や環境異変、経済の褒込に違和感や不安を覚えることはありましたが、自分は一体どの立場を持って諸問題を捉えているのか、将来の社会へ何をしたいか、明確な意志を持っていませんでした。意志が不確定な状況で話し合い考えを発展させることは、本当に難しく、これまで私が学んだことは文面上ばかりで実社会に繋がっていないようにも感じました。それでも、拙いながらに私が考える“学びの違和感”や“社会変革の夢を抱きにくい社会に挑戦したい思い”を話す中で、他のメンバーから沢山言葉をかけられ、はっとさせられ、私が持つ固まった考えが解きほぐされる瞬間がありました。

英語での発表が思うようでなかったと呟いた私への「挑戦に意味があって、私たちは成長できていると思う」という励まし、「好きなものがある。だから自身を持って好きといってずっと学び続けたい」という将来への真っ直ぐな意志は、強く心に残っています。議論の中で発言したメンバーにとっては何気ないひと言だとしても、私にとっては、自分の気持ちや概念を見つめ直し、自身や社会の可能性をもっと広げて捉えたいと思うきっかけでした。AYC2023では、多様な社会環境を共に学び、自分自身の意識に変化を起こす、そんな時間であったと振り返ります。

長瀬優衣

作成者：長瀬優衣

プログラム報告

施設訪問

　私たちは、プログラム2日目に、カトマンズより東に30分ほどにあるホームレスの方々が暮らす福祉施設を訪れました。
　まず施設に到着して印象だったのは、殺風景で質素な居住環境でした。建物の周辺には草が生い茂り、あまり整備されておらず、中は広場とベッドが並ぶ簡素な作りの部屋が並んでいました。また、地域の学生がボランティアとして働いており、食事などをうけもっていました。
　また、福祉施設にて使われているもの、提供されているものは、ほかのどこかで使われたりしていたものの再利用であるというお話を伺い、日本とネパールの福祉の違いの大きさに衝撃を受けました。さらに、まだまだネパールには支援を受けられていないホームレスが沢山いると知りました。
　これらを受け、実際に現地の状況を肉眼でみることで、何か出来ることはないかと少しでも考えるきっかけになりました。そして、施設の利用者とほんの少しですが、コミュニケーションをとることが出来たことが良かったと思いました。しかし、私たちが事前にネパールの福祉状況や訪問先施設のことを学んだり考えたりする機会がなく、訪問するだけはできないことの多さを感じ、実際に私たちがユースとしての取り組みができなかったことに改善点があると感じました。少し事前の施設説明を具体的に受け、分からないことが多くあったことを改善することで、より深く学ぶ福祉施設訪問になると思いました。

石井翔也

作成者：石井翔也

プログラム報告

カルチャーナイト

1日目　ー日本のお菓子紹介と折り鶴の実演ー

1日目、2日目に各国の文化を紹介し合うカルチャーナイトが行われました。1日目では、様々な国の衣装や遊び、歌、踊りそして食文化を紹介し合いました。私たちはお菓子を説明してお土産として配り、折り紙のツルを紹介して参加者と一緒に作りました。衣装では浴衣を紹介をしました。

お菓子の紹介と配布のために、事前にメンバーでおせんべいや飴などを購入して持って行きました。折り鶴は、他国の参加者の中に知っている方も知らない方もいました。興味津々に「どうやって折るの？」と聞いてもらえ、参加者全体で折り紙をすることが出来ました。また、ワイズメンズクラブの方々からAYC2023にあたって折り鶴の首飾りをいただき、作った鶴と合わせてお土産としてプレゼントしました。

石井翔也、長瀬優衣

プログラム報告

カルチャーナイト

2日目　ー日本の歌と踊りの紹介ー

　2日目のカルチャーナイトでは、日本の歌と踊りの紹介をしました。歌の紹介にはスタジオジブリ作品のトトロにある「さんぽ」を披露しました。トトロを知っている他の国のメンバーも多く、一緒に歌って参加してもらうことができました。

　また、踊りの紹介には、ピコ太郎の「PPAP」を選び、ホテル近くの八百屋さんでパイナップルとリンゴを買って、踊りの披露をしました。それぞれ持っていたサングラスをつけたりちょっとした変装をしてピコ太郎と同じような姿で「PPAP」を踊りました。この踊りや曲を知っている参加者の方も多く、また特徴的な踊りから評判も良く、翌日の3日目にも、セッション前に「PPAP」の踊りを依頼されるほどでした。

石井翔也、長瀬優衣

作成者：石井翔也、長瀬優衣

プログラム報告

カルチャーナイト

他国のカルチャーナイトの様子

　1日目にはそれぞれの国の食事やお菓子の紹介と伝統文化の説明・体験をすることができました。ネパールチームからは、小さな石を上に投げ、落ちてくるまでの間に床にある他の石を一つずつ拾って投げたものもキャッチする遊びの紹介があり、実際に参加者も挑戦しました。2日目には、その地域の伝統的な踊りや歌の実演がありました。

　食文化では日本と違いを感じることもあり、一方で伝統文化の紹介を通してだるまさんが転んだと似ている遊びが香港地域にもあることを知りました。

プログラム報告

タレントナイト

タレントナイトの様子

　タレントナイトでは、参加者それぞれが自分の特技や好きなことを披露し、それまでのプログラムでは深く知ることの難しかった参加者一人ひとりの違いや魅力を知り合うことができました。タレントナイトを通して、相手のことを、日本グループの一員・ネパールチームの一人・香港からきたメンバー、といった出身地やそのチームの誰かではなく、得意なことや魅力的な性格・特徴をもった“その人”として接するように変化しました。

　また、グループで踊りや歌を披露した参加者もいて、場の雰囲気を盛り上げAYC2023メンバーの絆をさらに深めることができました。

プログラム報告

タレントナイト

空手の体験

K-POPダンス

日本の手話

香港チームメンバーのダンス

空手の実演

カザフスタンの伝統楽器演奏

剣道の体験

二人羽織

プログラム報告

アクティビティ

　AYC2023の4日目午後にもうけられたチームビルディングアクティビティを、日頃ユースリーダとして活動しているということで指名を受け、石井翔也、丸山啓太が行いました。アクティビティの内容には、どっこいしょ、猛獣狩り、スリーヒントクイズの3つのプログラムを行いました。
　今まで日本語で行っているゲームを英語にて行うことに少し難しさがありましたが、参加メンバーがとても場を盛り上げてくれたこと、分からないながらも全力で楽しんでくれたことで楽しいアクティビティにすることが出来ました。
　日頃からプログラムを行っていますが、1人では何も出来ず、仲間がいること、そして楽しんで参加してくれる人達がいることでやっと、成り立つのだなということを今回改めて感じることが出来ました。

石井翔也

作成者：石井翔也

プログラム報告

参加者間交流

私が今回のネパール研修で、参加者との交流を通して感じたことは二つあります。

一つ目は、海外メンバーとの英語力の差です。私は、ネイティブのようには英語を話すことが出来ません。その分、海外メンバーの英語力が高く感じました。今回のプログラムでは、セッションやディスカッションをする場面がたくさんありました。自分の意見は自分の中にあるのに、それを言語化するのに苦戦して思ったことを満足いくまで伝えることができない、なんて場面もありました。しかし、メンバーは私が言おうとしていることを一生懸命汲み取ってくれたり、言葉を整理して代弁してくれたこともありました。全員の前で発表するときには少し緊張したけれど、周りの人たちの温かさのおかげで胸を張って話すことができました。

二つ目は、自己表現についてです。今回のプログラムに参加するように、外交的な参加者がやはり多かったです。プログラム以外では、昼に街を散策したり、夜はレストランに行ったりしました。私もたくさん誘ってもらい、その誘いに、ほとんど全部についていきました。単純に気になって行きたかったのもありますが、誘ってもらったこと自体がすべてうれしくてイエスマンになっていた部分もありました。その一方で、ほかのメンバーは夜のセッションに備えるために休憩したい、少し疲れたから行かない、など自分の意志で断っていることも多かったです。その様子を見て、このように自分の意志をしっかり持ってノーと言うことも大事だなと私は思いました。決して、その断りはいやなものではなく、自分の意思表示での行動だったので、私は見習いたいと思いました。

岩﨑葵

作成者：岩﨑葵

参加者感想

参加者感想

アンケート報告

　私たちは、今回の報告書作成にあたって、参加者全員の感想を収集しまとめるために、アンケートを行いました。AYC2023プログラムを通じて学んだこと、開催地ネパールに行くことで得た気づき、今後の生活やAYC2025・IYCに向けた展望など計5項目ごとにそれぞれの意見を集め、全体を通してAYC2023を多角的に振り返ることとしました。
　アンケートの作成と回答の収集には、Google フォームを使用しました。帰国後2023年9月中旬に実施して参加者の感想やアイデア、意見を集めました。
次のページから、各項目ごとの参加者の意見・感想とAYC2023の振り返りを編集しまとめます。

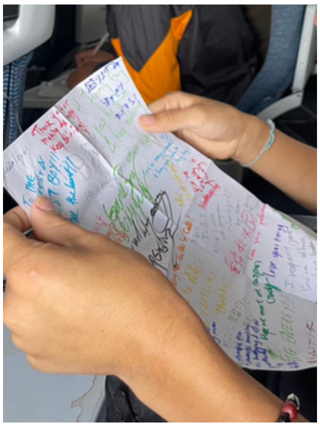
AYC2023振り返りアンケートの項目

1. AYC2023のプログラムを通して印象にのこっていること

2. 英語でのコミュニケーションを通して気づいたこと

3. 現地で驚いたこと

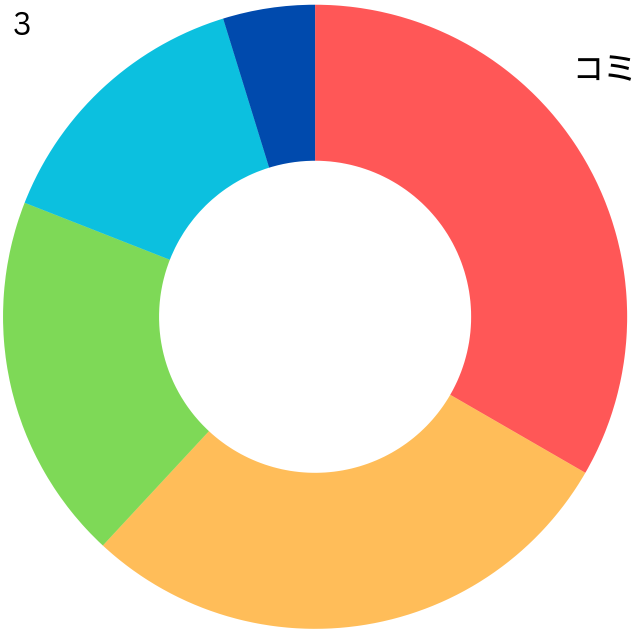
4. 振り返りメッセージ（感想と御礼）



参加者感想

印象に残ったこと

（AYC2023を通して印象に残ったこと、プログラムを通じて頑張ったことやわかったこと）



　印象に残ったこととして、多くの参加者はAYCの参加者とのコミュニケーションやカルチャーナイト・タレントナイト、その他プログラムを通じてできたお互いのつながり、交友関係をあげていました。

　今回のAYCは、対面でネパールに各国から参加者が集まって開催されました。コロナウイルスの爆発的流行で、渡航制限や対面でのイベントが規制され続けた経験は誰もが持っています。

それによって、他国のユースと顔を合わせて話し合い、同じ環境で1週間の時間を一緒に過ごすことができ、オフラインで人とつながることのありがたさや嬉しさをいつも以上に感じられたからこその意見が多く集まりました。

参加者感想

印象に残ったこと

（AYC2023を通して印象に残ったこと、プログラムを通じて頑張ったことやわかったこと）

日頃子どもを楽しませるプログラムを組み、実践していたり、前で話す機会が多かったため、その機会に積極的に参加出来たことは、とても良かったと思います。他国の参加者との交流の中で、会場を盛り上げる企画や実践ができたことは有意義なものでした。英語に自信はなかったですが、積極的にコミュニケーションを取りに行く意識を持って行動しました。

石井翔也

今回のプログラムでは、ただ受け身になるだけではなく自分が引っ張っていかないといけない状況が多々ありました。だからこそ、成長できたと感じています。

下山夏央

プログラム中は、自分の意思をしっかり伝えることを意識していました。また、できる限り他国のメンバーと一緒に行動することで、英語を積極的に使いました。食事時間などの自由行動の時には、特に他国のユースとコミュニケーションをしようと努力しました。英語での司会進行や発表にも挑戦し、プログラムを他のメンバーと一緒に楽しめました。
その結果、英語を使って自分の考えやアイデアを他国のユースと共有できたことが嬉しく、心に残る1週間を過ごせたと思います。ディスカッションや福祉施設訪問の時には、アジアという同じ地域のユース同士だからこそ、お互いの国の現状について身近なイメージを持って議論することができました。その上で、それぞれの国によって違う部分を学び合い、今後への課題を考えることができ、座学や自分の頭の中で考えるだけでは得られない気づきがありました。

岩﨑葵、長瀬優衣、藤原直輝、藤原湧介

参加者感想

印象に残ったこと

（AYC2023を通して1番印象に残ったこと、プログラムを通じて成長してこと頑張ったこと）

カルチャーナイトやタレントナイトが一番印象に残りました。カルチャーナイトでは、みんなノリノリで積極的に参加する人も多く、日本チームのPPAPダンスの反応もよく嬉しかったです。
タレントナイトでは、一人ひとりが持っているタレントを共有し、会場全体が一つになったと感じました。私たち日本チームからは眼鏡を振り落とすネタの披露や、剣道の実演を行ったメンバーがいました。それぞれのタレント披露では、全員が応援して会場が盛り上がりました。また、何を披露するか考えたり、自分の披露のために必要な道具を現地で調達したり、準備する時間も楽しかったです。

風間奈月、金丸翔海、小見萌々花、轟千佳、菱山紀武、三木祐弥、渡辺乙葉

2日目の施設訪問が印象に残っています。ネパールのホームレスの環境は日本のとは違っているところが興味深かったです。

藤原湧介

1週間という時間で、参加者間でこんなにも繋がりができるとは思っていないかったので、日本以外の友達がこれほどたくさんできたことが印象に残っています。英語での交流についていけないと感じたこともありましたが、だんだんと交流できるようになり他国の参加者とも仲良くなれました。他国チームのメンバーが、私でもわかるようにゆっくり英語話してくれたり、日本語で絵しりとりしてくれたり、みんなの優しさにすごく救われました。他にも目が合うと笑顔でニコニコしてくれたり、英語があまりわからなかったけれどお互いの繋がりを感じられました。
周りの参加者と一緒に空気感やテンション、盛り上がりを楽しむことができました。最終日のお別れの時は、自分でもびっくりするくらいお別れが悲しかったです。

小見萌々花、中西海斗、渡辺乙葉

参加者感想

コミュニケーション

（英語でのコミュニケーションを通じて感じたこと）

AYC2023では、プログラム全体の進行やセッション、ディスカッションといったコミュニケーションほぼ全ての場で、英語を使って行われました。私たち日本チームのメンバーは、これまでの渡航経験や英語スキルが個々人で異なり、それぞれの立場や目線から会話や情報共有を英語で行うことの面白さや難しさを感じました。

以下に、英語でのコミュニケーションを通して、今回日本メンバーが感じた「英語スキルを磨くことの重要さ」、「意見を伝えるとき、相手と話すときに感じたことや大切だと思ったこと」をまとめます。

１.英語を使って交流することの難しさ

英語ディスカッションの難しかったことは、自分の発音や表現に込めたニュアンスやイメージが、他の国・地域出身の参加者と異なり、伝えたいことがスムーズに伝えられなかったことです。 でも、この難しさがあったからこそ、伝えたいことが伝わったときやどのように言うのか・表現するのかわからない単語の謎が解けた時の楽しさや感動はより強かったとも思います。

自分の言いたいことを英語で表現することが難しかったです。調べたり、人が言っているものを聞いたりすると簡単に思える文章でも、自分の口からすぐに出すのは思うようにできませんでした。 また、英語が母国語ではない他の参加者の英語を聞き取るのが大変でした。 このことから、自分の発音もまた、英語がネイティブの方からすると聞き取るのが難しいのかもしれないと感じました。

参加者感想

コミュニケーション

（英語でのコミュニケーションを通じて感じたこと）

2.英語スキルを磨くことの重要さ

- **リスニング力**

　日本人以外の英語スキルの高さ、他の国の方の英語の話すスピードの速さにとても驚き、なんとか追い付こうとしたが、全く無理だったことに難しさを感じました。日本人で話せる方もいたが、他の国の方の英語スキルの高さは日本と比べ物にならないと感じました。ただ、だんだんと聞き取れるようになった際に、他の国々の方がどのような意見を持っているのかを理解できたことが楽しかったし興味深かったです。

- **スピーキング力**

　英語で伝えられないことが沢山あり、交流したいけれどしにくかったです。話したい時に単語が出てこなかったり、うまく伝えられなかったことはもどかしく感じました。身振りやわかる単語を使い、間接的な表現でなんとか遠回しに説明する場面も多くとても困りました。他の国のメンバーは英語に長けている人も多く、英語の流暢さでは、特に香港チームの英語がとても上手だと感じました。理由を問うと、日常で英語を使うことが多いからと言っていました。 日本の英語教育では、日常会話を学ぶ機会が少なく、実際に英語を使う時に固い表現になったな、うまく話せなかったと感じました。

　それでも翻訳機を使って話したり、日本メンバーに代わりに伝えてもらったりし、他国の参加者から反応が返ってきた時はとても嬉しかったです。今回プログラムを通じて少しずつ話せるようになって交流できるようになって、英語をしっかり学び、使うきっかけになりました。もっと英語を実際に使う力をつけたいです。

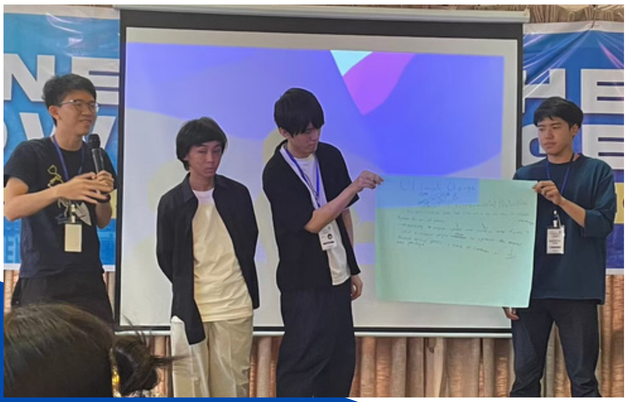
参加者感想

コミュニケーション

（英語でのコミュニケーションを通じて感じたこと）

3.コミュニケーションに大切だと感じたこと

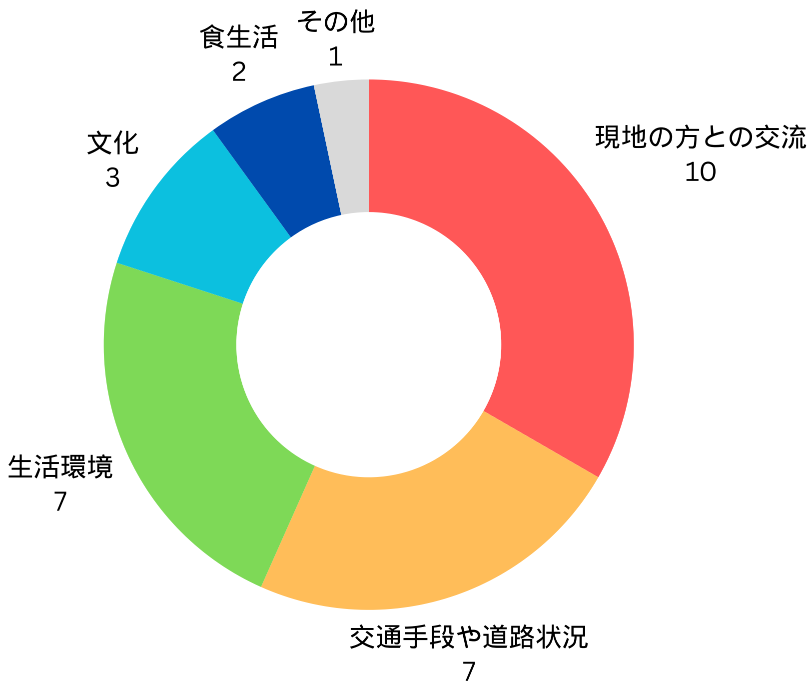
　今回のAYCでは、たくさんの交流の中で、他国のユースとカタコトながらも積極的に話しかけにいったことで友情を深め、英語を実践で使うことができました。英語での会話が必須な状況で、ジェスチャーや言葉以外での工夫して内容を伝えるのは楽しかったです。また、相手の話す英語を理解した時に、各国の文化の違いによるお互いの価値観の違いなどを知ることができ面白かったです。様々な価値観を持っている人々でも、英語を使えばお互いの考え方を理解できると分かり嬉しさも感じました。
　そして、英語はあくまでもコミュニケーションのひとつの道具に過ぎないと感じました。大事なのは英語能力ではなくて伝える意志と積極性ではないでしょうか。日本語で考えたことをそのまま完璧な英語にして話すことは困難ですが、その場を一緒に楽しむためには、まずお互いに向き合い、尊重し合うことが大切だと学びました。



参加者感想

現地で驚いたこと

（ネパールでのハプニング、市内観光やプログラムを通じて得た発見や新しく感じたこと）



　AYC2023では、市内散策や福祉施設の訪問を通じて、ネパール現地で生活する人と直接会い、交流する機会が多々ありました。ネパールは、アジア最貧国だと言われています。日本とは生活環境や文化習慣、物価や国内の状況も大きく異なる中で、約1週間の滞在を通して参加者全員それぞれが様々な経験をすることができました。

　アンケートでは、カトマンズ滞在の中で驚いたことのうち1番多かった内容が、「現地に住む方との交流」についてでした。カトマンズでは、英語のみならず日本語を話すことができる現地の方も多く、話しかけられることもあり、市内観光や自由時間での散策で交流することができ、その分学んだことや驚きも多かったともいえます。

　続いて、ネパールの「交通状況」や衣食住といった「生活環境」の違い、特徴に驚いたという参加者も多くいて、2つを合わせると「現地の方との交流」以上に日本チームにとって驚きが多かったと分かりました。

プログラム報告

現地で驚いたこと

• 現地の方との交流について

　顔を見て日本人だと思ったら日本語で話しかけてくださる現地の人が多かったことに驚きました。その日本語も「こんにちは」「かわいい」などいくつもありました。日本では、日本語と英語を学校教育を通して学習しますが、それ以外はあまりメジャーではありません。そのため、ネパールでネパール語と英語以外に、日本語を話せる人の多さに驚きました。
　実際に現地の人と話していると、出稼ぎや仕事で日本に来ていた経験を持っていたり、観光業や商売でお金を手に入れるために使えるようにしたり、アニメや漫画を通じて独学で学んだりしたなど、様々な経緯があることがわかりました。

岩﨑葵、長瀬優衣、渡辺乙葉

　現地の人の多くは、フレンドリーで優しい方が多かったことです。笑顔で挨拶してくれる人や、ネパール語を教えてくれる人もいて、親切な方が多い印象でした。

小見萌々花 、風間奈月、下山夏央

　ホテルの近くで、子どもたちと一緒にサッカーをすることができました。英語が話せなくてもボールがあれば繋がることにびっくりしました。

中西海斗

※氏名は50音順

プログラム報告

現地で驚いたこと

• 現地の方との交流について

初日に、トリバブン空港からホテルまでタクシーで行ったのですが、チップをいきなり1人10ドルのチップを3人分取られ、衝撃でした。

石井翔也

ネパール人の人の商売精神に驚きました。2日目の午前中に観光した寺で、数珠を売っているお婆さんに、寺にいる間ずっと追いかけられたことがとても記憶に残っています。

菱山紀武

※氏名は50音順

プログラム報告

現地で驚いたこと

• 交通手段や道路状況について

ネパールには電車がありません。電車はどの都市にもあって当然のものだと思っていたので、意外でした。ただし、日本とは異なる「ネパールタイム」があるから、もし電車があったとしても使いたくはないなとも思います。電車が時間通りに来るか、少しでも遅れたら必ず謝罪する日本の文化が相対化されました。

轟千佳

バイクが多いことに驚きました。ですが、反対に信号機は少なく、またあっても使われておらず、信号の役割を警察官で補っていること、横断歩道もほとんどなく歩行者が車の走行量を見て空いたタイミングで渡っていることにもびっくりしました。交通整備はあまり整ってはいないものの、お互いぶつからないように運転したり、横断したりしていることから、ネパールの人は周りを見る力が素晴らしいなと感じました。

石井翔也、風間奈月、小見萌々花、藤原直輝、渡辺乙葉

※氏名は50音順

プログラム報告

現地で驚いたこと

• 生活環境について

街中にいる犬とハトが多すぎることに驚きました。道端には大量のゴミが落ちて、たまっており、物乞いをしている人も少なくありませんでした。また、電信柱には大量の電線が剥き出しにかかっていました。街中は大気汚染が激しいところもあり、マスクが必要で衛生環境の違いに衝撃を受けました。

金丸翔海、長瀬優衣、三木祐弥

ホテルのテレビは全くつきませんでした。水回りも、日本とは違って詰まりやすかったり停電したり、またお風呂もシャワーのみで湯船がないこと、お湯が出ない時間帯があることにカルチャーショックを受けました。
また、ホテルの食事も、街中で売られているものも、辛い食べ物が多かったです。カレーは、日本で食べるカレーではない料理でした。

石井翔也、小見萌々花、轟千佳

アジア最貧国なのに都市部は意外と発展していたことに驚きました。新しい建物もどんどん作られていて、夜でもレストランは賑やかでした。お店や街中はカラフルなものが多くて鮮やかでした。

小見萌々花、下山夏央

最初、ネパールでは、建物や車などが綺麗とは言い難かったことに驚きました。日本はとても贅沢だと思いました。日本の建物や車も、もっともっと使えるのではないかと感じました。

渡辺乙葉

※氏名は50音順

プログラム報告

現地で驚いたこと

ネパールでの食事

ネパールではいくつもの香辛料を使った辛くスープ状のカレーが主食で、カレー風味の料理も数多くありました。モモという餃子に近い料理もありました。

プログラム報告

現地の様子

プログラム報告

現地の様子

プログラム報告

現地の様子

参加者感想

振り返りメッセージ

英語を使ったプログラムで自分の英語力の無さを感じたので、積極的に学びたいと思いました。また、AYC2023でアジアの貧困地域の現状を自分の目で見て、なにかできることがないかと、考える機会が増えました。
日々のリーダー活動の、人前で話す、みんなを楽しませるといったことがこのような場で活用できるというのを感じることが出来ました。AYCに参加させていただけたことにとても感謝しています。ありがとうございました！

石井翔也

文化対応能力や臨機応変に動くこと、また自分の意思をしっかり伝えようとしたことで自分を見つめ直すいい機会にもなりました。たくさんの刺激ももらえて今後に活かしていきたいと思いました。
今回このような素晴らしい機会を頂き、ありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します！

岩崎葵

今後も参加して英語をもっと勉強して話せるようになりたいと思いました。
AYCに参加できとても楽しかったです。ありがとうございました！

金丸翔海

帰国後の報告会で、自分が多くの人に支えられてAYCに参加していたんだなと気づいて、もっと頑張ろうと思いました。今回のAYCはすごく良い経験になりました。支援してくれる方々がいなければ、参加することはできなかったので本当に有難く思っています。この経験を活かして、今後もYMCAに貢献していきたいです。

小見萌々花

参加者感想

振り返りメッセージ

実際に海外に行くだけではなく、アジア中に友達ができたことはとても有意義でした。AYCという貴重な機会を設けていただいただけでなく、サポート・ご支援いただいて参加できたこと心から感謝申し上げます。

下山夏央

とにかく、自己肯定感の上がる経験をしました。日本では頂けないような褒め言葉を外国の方はたくさん言ったり書いたりしてくれて、本当にありがたかったです。その分、私も他者に対して感謝と尊敬の気持ちを忘れないようにしよう、と心に刻みました。
手厚いご支援のおかげで、文字通り一生の思い出になる1週間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

轟千佳

同世代のアジア各国参加者と直接話し、笑ったり泣いたり一緒に時間を過ごせたことが本当に貴重で濃い経験になりました。世界のどこかに友人がおり、お互いの存在を意識し合えること、この素敵な繋がりと交流を絶やしたくないと強く思います。
事前説明会や渡航前からAYCプログラム中の連絡、帰国後の報告会に至るまで、たくさんのご支援ありがとうございました。

長瀬優衣

英語をしっかり学べば交流も言いたい意見も言えるということで英語学習に火が燈りました。この経験をしっかりバネにしてやってきます。次回かつてないAYCになるように、頑張ります。
今回、AYC2023へ推薦してくださった熊本西クラブの皆様、AYC運営関係者の方々、大変お世話になりました。有意義な時間を過ごすことが出来ました。次回熊本でのAYC2025に今からワクワクが止まりません。大変お世話になりました！

中西海斗

参加者感想

振り返りメッセージ

今回のAYCで感じたこと、学んだことは、自分から挑戦してみることの楽しさを感じることが出来ました。プログラムなどを通して感じた、自分以外の15人の自分が見習うべき所や、格好いいと思った所を今後身に付けていきたいと感じました。
このような自分を変えられるようなきっかけに挑戦出来たのは、支援して頂いた川越クラブのおかげです。本当にありがとうございました！

菱山紀武

今後は、ただ与えられたボランティアに参加するだけではなく、自分自身で企画していく取り組みも行いたいと思いました。
この度は素晴らしい企画を用意して頂き誠にありがとうございました！次の機会に向けて、より成長していきます。

藤原直輝

自分の英語力の無さを実感し、またリーダーシップの像がどんなものであるかを知れました。今後、英語のコミュニケーション能力をもっと上げたいです。また、これからの生活でより積極的に今回学んだリーダーシップを発揮し、得た知識を活かしていきたいと思います。
今回のプログラムが円滑に進むよう準備し、開催してくださりありがとうございます。まだこのような機会を作ってくださってありがとうございます。日本人含め参加者全員のプログラムの取り組み姿勢や考えから多くのことを学べました。今回支えてくださったクラブの方々からは多くの支援をしてくださりました。ありがとうございます。

藤原湧介

参加者感想

振り返りメッセージ

人を楽しませる力・場を盛り上げる力をさらに身につけていかなければならないと感じました。普段の活動を継続して知的障害者の子どもたちに笑顔になってもらうとともに、さらに障害者の理解増進に尽力できるようになりたいと考えました。
お支えいただきありがとうございました。皆様のご尽力のおかげで精一杯活動に参加することができました。

三木祐弥

「私は私」。このことは、今回初めて参加させていただいたAYCで強く感じたことです。些細な出来事かもしれませんが、私にとってはAYCに参加して良かったと心の底から思える出来事の一つです。参加者の皆さんは、「私は私」という強い信念を持って、様々なボランティアに参加し、行動していて、社交的でリーダーシップのある外向的な方が多くいました。一方で、私は内向型のため、そのことに劣等感を抱いていました。世の中でも、外向型で積極的な人物が求められていると思い込んでいました。しかし、タイと香港からの参加者からの「外向型・内向型のどちらが良いなんてない」という言葉に「私は私」でいいのだと思うことができました。
それ以外にも、各国の文化に触れ、交流したり、ネパールや世界の抱えている問題を目の当たりにして、私にできることはないかと考えたり、もっと英語を勉強したいという思いに火が付いたりしました。AYCでの学びをこれからの人生に生かしていくとともに、次のAYC、IYCにもぜひ参加させていただきたいです。
関係者のみなさまのお力がなければ、今回のAYCに参加し、貴重な体験・経験をすることができませんでした。手厚くご支援いただいたことが大変印象深く残っております。多くのご支援を頂きまして、誠にありがとうございました。

渡辺乙葉

団長メッセージ

私は、日本チーム団長としてAYC2023に参加しました。渡航前に、団長を任命された際は非常に不安でした。「団長らしく、チームをリードしていけるのか。団長らしいことをできるのか。」というネガティブな感情しか湧かなかったことを覚えています。しかし、準備する中で「団長らしさ」ではなく「自分らしさ」を優先にありのままの自分でやっていこうと思い、心に留めながら過ごしました。振り返ってみると、至らない点はたくさんあったと思います。それでも、山梨YMCAのスタッフとして、そしてチームの団長として、日本チームの一員として、常に責任感を持ち、日本人16人全員を、ありのままの私で、そして私なりのリーダーシップの取り方でバランスよくリードしつつ見守ることを心掛けました。そして私は、この団長の経験によって、渡航前の「不安」は、帰国後「自信」に変化するということを実感することができました。それも、私だけの力だけではなくメンバー、一人ひとりが持っている神様からの賜物、そして全員がリーダーシップを持っていたからです。1人が上に立ちリードするのではなく、全員が素晴らしい働きをしてくれました。

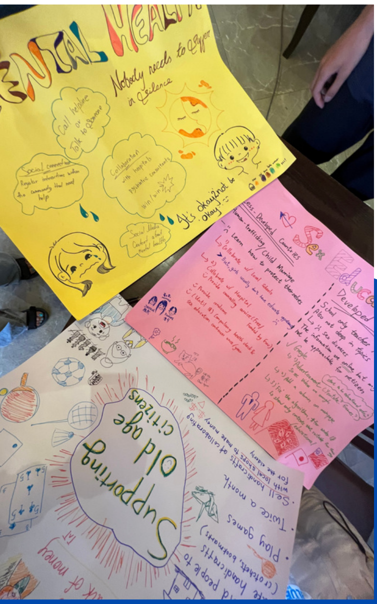
さらに、今回私は、世界に広がる社会問題について多くを学び、吸収することができました。プログラム以外でも、ネパールの貧困問題の現状を目の当たりにしました。貧困問題は世界共通の社会問題であると認識し、問題の解決にはそれぞれが自国に戻ってからのユースアクションが重要であることを実感しました。マタイによる福音書5章13節「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。」とあるように、一人ひとりがこの世にあってなくてはならないもの、貴重な存在であることを心に留め、YMCAユースとして山梨、国内、そして世界へ働きかけていきたいと思っております。

この度は、大変貴重な体験・経験をくださり、感謝しております。
本当にありがとうございました。
AYC2023日本チーム団長（山梨YMCA）風間奈月

学びと展望

NEPAL

SHINE TOGETHER GROW STRONGER
ASIA PACIFIC AREA YOUTH CONVOCATION
CERTIFICATE OF PARTICIPATION
This certificate is presented to
SHOYA ISHII (SHAWN)
for being an active participant at the Asia Pacific Area Youth Convocation held on August 25 - 29, 2023 at Hotel Thamel Park, Kathmandu, Nepal.
DEEPAK BHANDARI, PHD
KRISHNAN UNNI
ALYSSA MARIE ALITA
KEITA MARUYAMA
KAITO NAKANISHI
NAGASE
MOYAMA


Supporting old age citizens

学びと展望

AYC2025に向けて

　AYC2025は、熊本で開催されます。今回カトマンズで開催されたAYC2023でも、多くの学びや気づき、新しい出会いや仲間との一体感を得ることができました。そして、この貴重な場を熊本ではもっと盛り上げたい、と感じるようになりました。
　私たちは、AYC2023終了後に実施したアンケートにて、それぞれが次回のAYCでやりたいこと、アジア各国のユースとの交流・学びの場を今まで以上に盛り上げ、実りあるものにするために重要だと感じたこと、プログラムの企画を出し合いました。報告書の最後に、AYC2025に向けた私たちの思いやアイデアをまとめます。

0.AYC2025を盛り上げるために・・・

AYC2025では、全体を通してグループでひとつの大きな議題に4日間かけて向き合うといった、「グループ感」を作るグループワークを行いたいと考えています。
例えば、YMCAの全国リーダー研修会では、YMCAの未来、可能性を地図に表せという課題に３日間で挑戦することがありました。ディスカッションも市内散策も同じグループで行うことで、仲間としての一体感が強くなると思います。

石井翔也

AYC2025では、ディスカッションや福祉施設訪問などの内容に一貫性を持たせ、一つの大きな軸のあるプログラムにできるとより深みが生まれると考えました。その上で、「おもてなし」精神を出して日本チームがAYCの会場を牽引していきたいです。

下山夏央

学びと展望

AYC2025に向けて

AYC2025を最大限盛り上げるためのアイデア

1.日本文化の魅力を伝える

AYC2025全体を通して日本の文化や食を深く知る場にしたいです。

岩﨑葵

日本のアニメやマンガなどは、他の国の参加者にも人気でした。日本のサブカルチャーを用いたプログラムができると盛り上がると思いました。

金丸翔海

日本の伝統的な文化を紹介したいです。また、寿司などの日本の料理を食べてもらったり、着物を着てもらったり、実際に体験する場もあると良いのではないかと思います。

小見萌々花

他国の参加者には、熊本までの道中でぜひ新幹線を使ってみてほしいです。AYC2023でネパールの人には「日本に行ったことはないけど新幹線は知っていて好き！」や「電車を知らない」と言われました。日本の強みである新幹線を体験してもらいたいと思います。

轟千佳、渡辺乙葉

学びと展望

AYC2025に向けて

1.日本文化の魅力を伝える

今回も使った千羽鶴などの長期保管が可能な物的お土産を用意したいです。また、音楽は言葉以外のコミュニケーションツールだと思うので、J-POPや伝統音楽を感じられる演出・装飾があると盛り上げられると考えます。

長瀬優衣

時間を守るといった、日本の習慣も一つの伝統として体感してもらうことも文化を知るきっかけになると考えます。

三木祐弥

今回、他国の人に人気だった、くまモンが登場すると盛り上がると思います。

藤原湧介

2.日本の自然を体験する

開催地熊本の景色や山々を実際に体験する時間を通して、日本を伝えたいです。他国の参加者には、温泉に入ってもらうことで日本の自然も文化も知ってもらえると考えています。

小見萌々花、長瀬優衣

市内観光では熊本城に訪れることで、日本の歴史を感じてもらうのは勿論のこと、震災についても知ってもらえるのではないかと思います。

菱山憲武

学びと展望

AYC2025に向けて

3.日本の課題を体感する

日本は、貧困問題と関連性がないと言う印象があると思います。だからこそ、日本の貧困問題の実態を共有して、日本の課題への認識を変えることも必要だと思います。

風間奈月

施設訪問は、児童施設に行くことがいいと思います。今回のホームレスの支援施設での体験は、施設のお話もとても勉強になったが、ディスカッションして彼らのために何ができるかを実習してみたかったという思いもあります。訪問先で、実際にできることをやりたいです。
AYC開催地域の中で、実際にボランティアを必要としているイベントへの参加に興味があります。

藤原直輝、藤原湧介

4.細部からも熊本・日本を感じる仕組み

市内散策や観光といった街に出るプログラムでは、行く場所のパンフレットやエリアマップを作り、開催地熊本周辺についてしっかりと知った上で行けるようにしたいです。

石井翔也

日本語の表現、発音、抑揚、文字がかわいい・好きだとはなしている参加者が多かったので、パンフや当日のスケジュール表にあえて日本語やひらがな表記を追加するのも面白いかもと考えます。

長瀬優衣

学びと展望

ー2025ayc熊本、2024IYCに向けてー

私は、今回、自分自身3年間のリーダー期間で培った「リーダー力」を用いてプログラムの進行をすることができました。しかし、言語、文化も異なる同世代というのは参加者全員が初めての機会でした。その上で、AYC2023では、全員が同じ状況であることを把握し、普段は別々の場所で活躍する他のリーダーたちと一緒に、プログラムを盛り上げることができたと感じています。AYC2023に参加して今まで経験したことのない学び、経験を得ることができました。
また、日本からのユースたち仲間が、英語力は決して高いとはお世辞にも言えなくても、英語ができないながらでも、ジェスチャーなど用いながら努力する姿が印象に残っています。

今回の経験を通して、2024年のIYCは絶対に参加をしたいと感じています。AYC2023ではアジア出身の方々との関わりが中心でしたが、今回の学びを生かして世界のユースたちと文化交流や議論をしたいと思いました。
そして、AYCは2年に1度開催されていますが、次回の開催地が日本の熊本県で開催されることがAYC2023にて発表されました。今回、AYC2023の日本のユース参加者に事後アンケートを実施したところ多くの案が出てきました。これらを踏まえて、AYC2025熊本を全参加者にとってより良い経験、思い出となるように努めたいと思います。

丸山啓太

作成者：丸山啓太

東日本区・西日本区ユース報告書
AYC2023 REPORT

THANK YOU

SHINE TOGETHER, GROW STRONGER